⑨ 西念寺砲弾跡

西念寺は、慶応2年6月(1866)の長州の役では、長州軍の前線基地として本陣が置かれました。このため幕府軍の艦砲射撃の標的となり、砲弾が本堂正面の主柱を支える“肘木”に当たりました。その跡が今も残されています。

⑩ 和田家の長屋門

和田家は、江戸時代を通して庄屋・割庄屋を務め、また各村々をまとめた功績などにより「長屋門」が許されたといわれます。この長屋門は、慶応2年6月の長州の役で焼失、翌年に復元されました。

⑪ 鼯(はごろも)の碑(大竹市指定重要文化財)

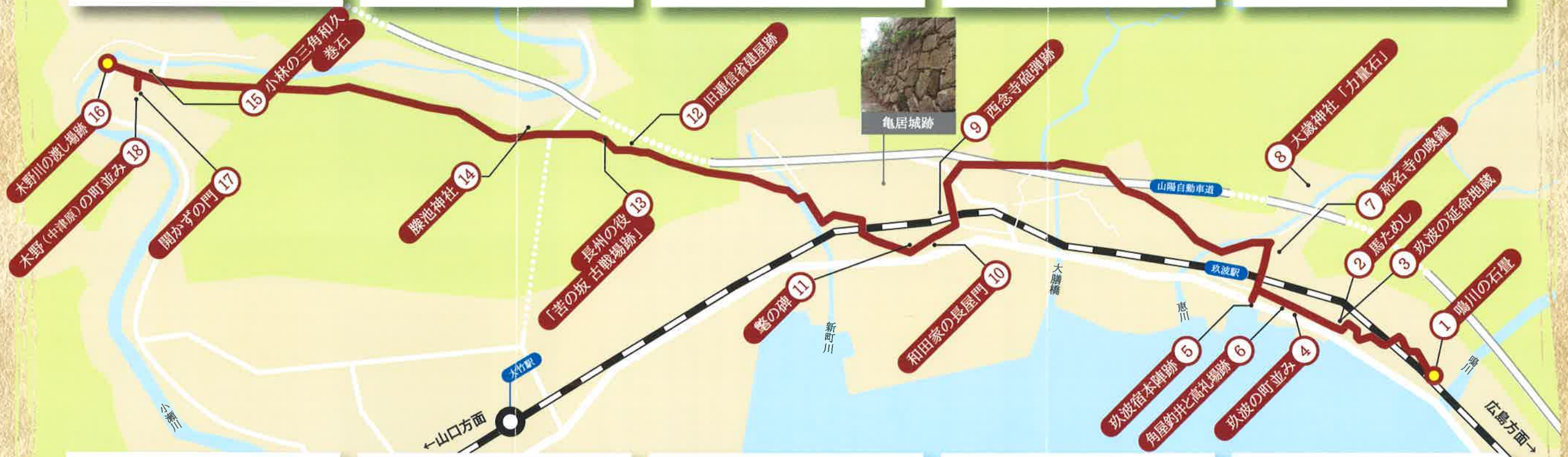
江戸初期の俳人“松尾芭蕉”が、元禄7年(1694)に没した後。紀行文七部集の「続猿蓑」に発表されている“鼯につつみてぬくし 鴨の足”の句を天保14年(1843)芭蕉の150回忌を追善し、小方村の俳人たちが句碑にして建立しました。

⑫ 旧逓信省建屋跡

昭和10年、福岡~仙台間に電話ケーブルが敷設され、通信能力を維持するために一定距離で装荷線輪が取り付けられました。この構造物は装置を収納するためのものと考えられます。北海道小樽市に現存しており、苦の坂に残された構造物の姿ととてもよく似ています。

⑬ 長州の役『苦の坂古戦場跡』

慶応2年(1866)6月14日、幕府軍越後高田藩兵約1000と長州遊撃隊など約250がこの地で銃撃戦を展開し、幕府軍は長州軍の巧妙な戦略で、小方側に追い落されました。



⑭ 滕池(ちきりいけ)神社(市杵島姫命伝説)

伝説によると、西暦593年、推古天皇即位の頃、市杵島姫命が、嬰児を背負い“苦の坂”峠に差し掛かり旅の疲れから機織機の部品である“金のちきり”をやむなく麓の池に投げ落とし、身を軽くして峠を越えたという話を、今も木野地区では語り継がれています。

「えらや 苦しや この苦の坂は 金のちきりも 要らぬもの」

⑮ 小林(こばやし)の三角和久(さんかくわく)と巻石(まきいし)

←巻石

小林の三角和久→

木野村(中津原)の小林というところに、洪水から村を守るため、大きな石を“三角”に積み重ね水の流れを反らせた三角和久と、それに続く「巻石」と呼ばれる堤防が築かれています。城郭のごとく強固に作り上げられた石垣は、江戸時代初頭の福島堤防とも言われています。

⑯ 木野(このがわ)川の渡し場跡(大竹市指定重要文化財)

この「木野川の渡し」は、交通も頻繁で、渡し守は木野・小瀬両村から2人ずつ昼夜交代でつとめていました。文政2年(1819)の『国郡誌下調べ書き出し帳』には、「人は2文、牛馬は4文」と記され、渡し場跡の河川敷は、今も昔の姿をとどめています。

⑰ 開かずの門

本陣「茶屋」としての役割ではなかったようですが、雨が降り続いて小瀬川の水嵩が増し、足止めされた際など、大名や藩の役人などが、休息や時に宿泊したところで、今も「開かずの門」と地元の人はいっています。昔日の面影を残す門として、貴重な文化財の一つです。

⑱ 木野の町並み

木野1丁目中津原地区は、明治・大正そして昭和に入っても、山間部からの物流の中継地であり、酒造・醤油・手すき和紙などの製造が盛んに行われていました。今も格子戸のしっとりとした町並みが、見られます。